

新規・拡充事業一覧

※主な新規・拡充項目については、主なものであるため、事業費総額と合計が合わないことがあります。

部名称	課名称	事業名称	事業費総額		主な新規・拡充項目	主な新規・拡充項目				頁
			令和8年度 要求額 (千円)	令和8年度 最終査定額 (千円)		令和8年度 要求額 (千円)	令和8年度 最終査定額 (千円)	査定内容	査定の詳細	
交通部	交通政策課	バス運行事業(路線バス運 転士雇用支援事業)	1,200		市内に営業所を有する路線バ ス事業者を対象に住居費補助 を実施	1,200				1
交通部	交通政策課	SMIプロジェクト推進事業	281,251		SMI美原ライン運行負担金等	28,000				5
都市整備部	都心未来創造 課	都心活性化推進事業	44,241		堺都心部調査分析業務	14,768				9
都市整備部	都心未来創造 課	臨海部活性化推進事業	40,387		堺駅周辺整備に向けた方針検 討業務	10,000				12
都市整備部	都心未来創造 課	環濠都市堺の再生事業	34,881		元堺消防署用地活用事業に係 る構造計画検討ほか業務等	6,477				15
					堺環濠エリア活性化推進検討 支援業務	16,962				
開発調整部	建築防災推進 課	建築防災推進課一般事務	14,418		空き家等対応業務	14,418				19

# 令和8年度 事務事業予算要求シート（1）

				要求区分	新規・拡充
				事務事業分類	A 一般事務事業
一般会計				事業番号	017-071
事務事業名	バス運行事業（路線バス運転士雇用支援事業）				
担当部署名	建築都市	局	交通	部	交通政策課

Ⅰ．基本情報									
事業の位置付け									
1	堺市基本計画 2030	施策との関連	有・無	戦略	5.強くしなやかな都市基盤 ～Resilience～		施策	(2) 都市インフラや公共施設の最適化・老朽化対策と交通ネットワークの構築	
			有	取組の方向性	⑤生活基盤としての公共交通の維持確保				
		寄与するKPI	有・無	指標名	—				
	無		現状値	—		目標値	—		
			堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	ゴール	ゴール(11)住み続けられるまちづくりを		ターゲット
	有	取組			東西交通の整備など交通ネットワークの機能強化				
寄与するKPI	有・無	指標名		—					
	無	現状値	—		目標値	—			
2		関連計画			堺市地域公共交通計画				
3	事業開始年度			令和 8 年度		点検対象年度		令和 12 年度	
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)			—					
事業の概要									
5	事業の実施主体			本庁					
6	事業の対象			市内に営業所を有する路線バス事業者				対象数	単位
								2	社
7	事業の目的			慢性的なバス運転士不足が続く中、バス運転士の高齢化に伴う退職者の増加や厚生労働省が定める「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準告示」の改正（令和6年4月）により、本市においてもバス運転士不足が一層深刻化しており、路線バスの減便などが発生し、バス路線の維持・確保を図る必要がある。堺市地域公共交通計画（令和6年5月策定）においても、路線バスの担い手不足への対応を位置づけており、バス運転士の確保は喫緊の課題となっている。 こうした課題に対応するため、市と路線バス事業者が連携し、バス運転士への住居費支援を実施することでバス運転士の経済的負担を軽減し、新たなバス運転士の確保を図る。					
8	事業内容			1．路線バス事業者によるバス運転士確保の取組を支援するため、路線バス事業者を対象にバス運転士への住居費支援に要する費用の一部に対する補助を実施 ①補助対象者 市内に営業所を有する路線バス事業者 ②補助内容 補助対象経費の額（路線バス事業者がバス運転士に支援した住居費用）に1/2を乗じて得た額 ただし月額補助上限：2万円／人（最長5年間）  2．上記取組に加えて、バス運転士の住まいとして市営住宅・市内の府営住宅の空室を活用する取組を実施					
				※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載					
9	主な支出先			路線バス事業者					
10	公民連携・協働事業			—					

## Ⅱ．事業の目標

### 事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位		実績 令和6年度	実績見込み 令和7年度	目標 令和8年度	目標 点検対象年度 令和12年度
	運転士支援者数（のべ）	人	目標値	－	－	5	20
			実績値	－	－		
			達成率	－	－		
当該指標を選定した理由		新規採用者の増加と離職者を抑制することが、バス運転士確保に寄与するため。					
目標値の設定根拠・算出方法		新規採用者の離職を抑制し、継続して雇用したものとして算出					

12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位		実績 令和6年度	実績見込み 令和7年度	目標 令和8年度	
	運転士支援者数（新規分）	人	目標値	－	－	5	
			実績値	－	－		
			達成率	－	－		
当該指標を選定した理由		新規採用者の増加が、バス運転士確保に寄与するため。					
目標値の設定根拠・算出方法		市内路線バス事業者の採用者数、退職数等を考慮し算出					

## 令和8年度 事務事業予算要求シート（2）

事務事業名	バス運行事業（路線バス運転士雇用支援事業）	事業番号	017-071
-------	-----------------------	------	---------

### Ⅲ. 令和8年度予算要求額

#### 事業コスト

（単位：千円）

	項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
		決算	決算	決算	予算	予算要求
	事業費（a）	0	0	0	0	1,200
13 財 源 内 訳	国支出金					
	府支出金					
	市債					
	その他（ ）					
	受益者負担金(使用料、手数料等)					
	一般財源	0	0	0	0	1,200

#### 事業費の内訳

（単位：千円）

	主な項目	年度		事業費	うち 一般財源	主な項目	年度		事業費	うち 一般財源
14 事 業 費 内 訳	路線バス運転士雇用支援事業補助金	R7	予算	0	0		R7	予算		
		R8	予算	1,200	1,200		R8	予算		
		R7	予算				R7	予算		
		R8	予算				R8	予算		
		R7	予算				R7	予算		
		R8	予算				R8	予算		
		R7	予算				R7	予算		
		R8	予算				R8	予算		
		R7	予算				R7	予算		
		R8	予算				R8	予算		

#### 債務負担行為

（単位：千円）

15	期間	R ～ R	要求額
----	----	-------	-----

### Ⅳ. スケジュール

#### 経過及び今後の展開

16	R7まで	・令和7年3月に路線バス事業者と連携協定を締結し、バス運転士等の担い手確保に向けた取組 ・さらなるバス運転士確保に向けた施策検討
	R8	・住居費補助を開始
	R9以降	・住居費補助を継続実施

### Ⅴ. 要求のポイント

17	要求のポイント	年間 5 人程度を支援することを想定した見込み額を要求
----	---------	-----------------------------

# 路線バス運転士雇用支援事業

## 背景・目的

- ・喫緊の課題であるバス運転士不足によるバス路線の減便等に対応するため、バス運転士の確保に取組み、市民の日常生活や経済活動を支えるバス路線の維持・確保を図る必要がある。
- ・バス運転士不足の改善に向け、路線バス事業者に対する新たな支援を始めます。

## 【新規】 路線バス事業者による住宅費支援に要する費用への支援

### 事業内容

路線バス事業者によるバス運転士の確保に係る取組を支援するため、路線バス事業者を対象にバス運転士への住居費支援に要する費用の一部に対する補助を実施

### 補助対象者

市内に営業所を有する路線バス事業者

### 補助内容

事業者が運転士採用者に支援した住居費用に1/2を乗じて得た額  
ただし月額補助上限：2万円／人（最長5年間）

### 令和8年度予算要求額

1,200（千円）



### ※運転士の要件

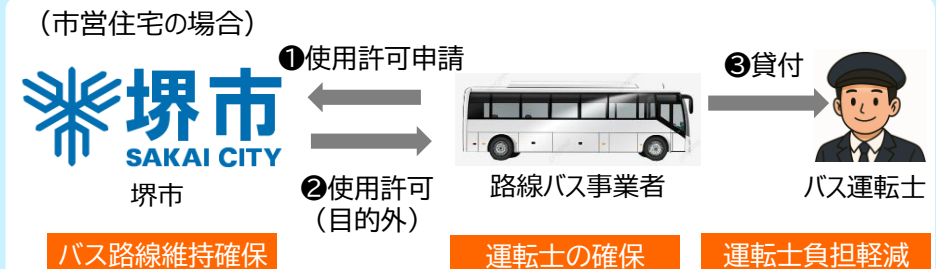
- ・市内に転入する採用者
- ・雇用開始日から5年以内
- ・市内営業所に勤務
- ・大型自動車第2種免許を保有 等



## 【新規】 市営住宅等を活用したバス運転士の住宅確保

### 事業内容

- ・運転士の住まいとして、市営住宅、市内の府営住宅の空室を活用
- ・市営住宅等の目的外使用許可により、市内に営業所を有する路線バス事業者がバス運転士採用者に住宅として貸付可能となる。
- ・本取組により、バス運転士確保のほか、空き室の有効活用や入居者コミュニティの維持・向上にもつながる。



# 令和8年度 事務事業予算要求シート（1）

				要求区分	新規・拡充
一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	SMIプロジェクト推進事業			事業番号	017-066
担当部署名	建築都市	局	交通	部	交通政策 課

## I. 基本情報

### 事業の位置付け

1	堺市基本計画 2030	施策との関連	有・無	戦略	4.人や企業を惹きつける都市魅力 ～Attractiveness～		施策	(2) 多様な人が集い交流する魅力的な都心エリアの形成		
			有	取組の方向性	③便利・快適で脱炭素化に資する移動環境の構築					
		寄与するKPI	有・無	指標名	都心エリアの歩行者通行量					
			有	現状値	64,500人/日（2025年度）			目標値	68,400人/日（2030年度）	
	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	ゴール	ゴール⑪住み続けられるまちづくりを		ターゲット	11.2		
			有	取組	東西交通の整備など交通ネットワークの機能強化					
		寄与するKPI	有・無	指標名	—					
			無	現状値	—			目標値	—	
2	関連計画			「堺市都市計画マスタープラン」、「堺市立地適正化計画」、「堺都心未来創造ビジョン」、「堺市地域公共交通計画」、「堺観光戦略」、「堺環境戦略」、「堺市バリアフリー基本構想」、「堺市景観計画」、「大阪のまちづくりランドデザイン」、「SMI都心ライン及び関連取組に関する導入計画」						
3	事業開始年度			— 年度		点検対象年度		令和 12 年度		
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)			「交通政策基本法」、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」、「道路法」、「道路交通法」、「軌道法」、「道路運送法」、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」						

### 事業の概要

5	事業の実施主体	本庁、民間企業		
6	事業の対象	堺市民及び市外からの来訪者	対象数	単位
			—	—
7	事業の目的	公共交通の利便性向上やバリアフリー化、多様な移動ニーズに応じたモビリティの導入による便利・快適な移動環境の構築、様々な情報やサービスの包括的な提供などにより、人口構造の変化や働き方の多様化などに対応する。		
8	事業内容	<p>【SMIプロジェクト（素案）の概要】</p> <p>取組の方向性：ウォーカブルな都市空間の形成、バリアフリーな都市空間の形成、生活利便性や回遊性を高める情報・サービス連携、公共交通の利用促進と脱炭素化、拠点間ネットワークの構築</p> <p>【スケジュール】</p> <p>＜令和3年度＞ ・SMIプロジェクト（素案）の作成・公表</p> <p>＜令和4年度＞ ・SMIプロジェクトにかかる市民意見募集</p> <p>・SMI都心ライン及びSMI美原ラインの実証実験</p> <p>＜令和5年度＞ ・「SMI都心ライン等推進協議会」及び「SMI都心ライン自動運転技術等検討分科会」の設置・運営</p> <p>・都心回遊性向上実証実験</p> <p>・SMI美原ライン実証実験</p> <p>＜令和6年度＞ ・「SMI都心ライン自動運転社会実装推進事業コンソーシアム」及び「SMI都心ライン地域コミティ」の設置・運営</p> <p>・「SMI都心ライン及び関連取組に関する導入計画（案）」の作成、説明会等の実施</p> <p>・SMI美原ライン実証実験</p> <p>＜令和7年度＞ ・「SMI都心ライン及び関連取組に関する導入計画」の策定</p> <p>・SMI都心ライン及びSMI美原ラインの実証実験</p>		
	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載			
9	主な支出先	民間企業（コンサルタント、バス運行事業者等）		
10	公民連携・協働事業	SMI都心ライン自動運転社会実装推進事業コンソーシアム		

## Ⅱ. 事業の目標

### 事業の成果や活動実績の測定

成果指標(目的の達成状況を測定)	単位		実績	実績見込み	目標	目標 点検対象年度
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和12年度
都心エリアの歩行者通行量	人/日	目標値	—	—	65,280	68,400
		実績値	—	64,500		
		達成率	—	—		
当該指標を選定した理由	歩行者通行量は賑わいや交流が創出されている状況を示す指標であり、訪れる・働く・住む人など多様な目的の人が集い・交流する魅力的なエリア形成の進捗を評価できるため。					
目標値の設定根拠・算出方法	新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年度の水準					

活動指標(成果を上げるための手段)	単位		実績	実績見込み	目標		
			令和6年度	令和7年度	令和8年度		
SMIプロジェクトの実現に向けた取組の実施（計画策定、実証実験、業務委託など）	回	目標値	5	7	5		
		実績値	4	7			
		達成率	80%	100%			
当該指標を選定した理由	SMIプロジェクト（素案）公表後、実証実験などを段階的に進めることで、SMIプロジェクトの実現につながるため。						
目標値の設定根拠・算出方法	来年度予定している取組の件数（実証実験、委託業務など）						

## 令和8年度 事務事業予算要求シート（2）

事務事業名	SMIプロジェクト推進事業	事業番号	017-066
-------	---------------	------	---------

Ⅲ. 令和8年度予算要求額									
---------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業コスト <span style="float: right;">（単位：千円）</span>									
13	財 源 内 訳	項 目	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算	令和8年度 予算要求		
		事業費（a）	34,799	49,937	20,197	281,883	281,251		
		国支出金	0	0	0	148,716	149,560		
		府支出金	0	0	0	0	0		
		市債	0	0	0	0	0		
		その他（ ）	0	0	0	0	0		
		受益者負担金（使用料、手数料等）	0	0	0	0	0		
		一般財源	34,799	49,937	20,197	133,167	131,691		

事業費の内訳 <span style="float: right;">（単位：千円）</span>									
14	事 業 費 内 訳	主な項目	年度	事業費	うち 一般財源	主な項目	年度	事業費	うち 一般財源
		SMI都心ライン等推進協議会負担金	R7	予算	183	大屋根リング木材譲渡にかかる運搬委託【新規】	R7	予算	0
	R8		予算	183	R8		予算	1,000	
		SMI都心ラインにかかる実証実験負担金	R7	予算	158,011	SMI美原ライン実証実験負担金	R7	予算	17,972
	R8		予算	162,680	R8		予算	0	
		バス待合環境改善・情報発信・走行空間実証実験	R7	予算	89,212	SMIプロジェクトに係る実証実験実施支援業務	R7	予算	15,657
	R8		予算	89,079	R8		予算	0	
		SMI美原ライン運行負担金【新規】	R7	予算	0	その他	R7	予算	848
	R8		予算	20,000	R8		予算	1,309	
		SMI美原ライン運行支援業務【新規】	R7	予算	0		R7	予算	
	R8		予算	7,000	R8		予算		

債務負担行為 <span style="float: right;">（単位：千円）</span>									
15	期 間	R ～ R	要 求 額						

Ⅳ. スケジュール	
-----------	--

経過及び今後の展開	
16	<div style="display: flex;"> <div style="width: 15%; padding-right: 10px;"> R7まで      R8    R9以降 </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新たな交通システムの導入に関する検討</li> <li>○SMIプロジェクト（素案）を公表、市民意見募集の実施</li> <li>○SMI都心ライン等推進協議会の設置</li> <li>○SMIプロジェクトにかかる実証実験の実施</li> <li>○SMI都心ライン及び関連取組に関する導入計画の策定</li> <li>○SMI都心ライン自動運転社会実装推進事業コンソーシアムの設置</li> </ul> </div> </div>

Ⅴ. 要求のポイント	
------------	--

17	<div style="display: flex;"> <div style="width: 15%; padding-right: 10px;">要求のポイント</div> <div> <p>【SMI都心ライン】</p> <p>○国は、2027年度までに無人自動運転移動サービスを100か所以上で実現するという目標を掲げており、SMI都心ラインにおいても、2027年度の一部区間の自動運転レベル4実現を見据え、大型車両による実証実験を実施する。</p> <p>○バス待合環境の改善に向けた待合・休憩スペースの設置やデジタルサイネージ等による情報発信機能の強化などに関する実証実験を実施する。</p> <p>【SMI美原ライン】</p> <p>○過年度の実証実験を踏まえ本格運行を開始し、OD調査や交通量調査などを行う。</p> </div> </div>
----	---



令和8年度予算要求額：281,251千円

うち新規分：28,000千円

## 背景・事業目的

### 【SMI都心ライン及び関連取組】

- 人口減少・高齢化の進展により、人口構造が変化。
- バス運転士不足が深刻化しており、堺市内のバス路線で減便や廃止が発生。堺駅・堺東駅を結ぶシャトルバスも減便が発生。
- なにわ筋線の開業の機を捉え、国内外からの玄関口となる堺駅から都心部へ来訪者を誘引することが重要。
  - 自動運転等の先進技術や取組により、堺都心部の高頻度な運行サービスの維持・向上を図る。また、自動運転の導入効果を他の路線へ横展開し、地域公共交通の維持・確保を図る。
  - SMI都心ラインに加え、次世代モビリティなどの関連取組により、便利・快適でバリアフリーな移動環境の構築を図る。

### 【SMI美原ライン】

- 本市は、南北方向の鉄軌道が中心で東西方向の移動が脆弱。
- 堺都心部と美原は、1本の公共交通で行き来ができず、時間・手間・費用を要する。
  - 堺都心部と新金岡や美原などを結ぶ拠点間ネットワークの構築により、東西交通が脆弱な本市の課題の解決や人流・地域の活性化、公共交通の利用促進などにつなげる。

## 新規内容

- SMI都心ラインで整備するバス停留所や待合・休憩スペースに使用するため、公募により譲渡されることになった大屋根リングの木材を運搬し、バス利用環境の改善を図る。
- SMI美原ラインについて、過年度の実験結果を踏まえ、本格運行及び利用状況等調査を実施。

令和8年度 事務事業予算要求シート（1）

				要求区分	新規・拡充
一般会計				事務事業分類	G 企画・計画策定・調査研究事業
事務事業名		都心活性化推進事業		事業番号	017-051
担当部署名		建築都市	局	都市整備	部
				都心未来創造	課

I. 基本情報

事業の位置付け										
1	堺市基本計画 2030	施策との 関連	有・無	戦略	4.人や企業を惹きつける都市魅力 ～Attractiveness～		施策	(2) 多様な人が集い交流する魅力的な都心エリアの形成		
			有	取組の方向性	①多様な人が集う魅力的な都市空間の形成					
		寄与 する KPI	有・無	指標名	都心エリアの歩行者通行量					
			有	現状値	64,500人/日（2025年度）			目標値	68,400人/日（2030年度）	
	堺市SDGs 未来都市 計画	施策との 関連	有・無	ゴール	ゴール(11)住み続けられるまちづくりを		ターゲット	11.3		
			有	取組	堺市都市計画マスタープランに基づく各エリアの特色を活かした都市整備の推進					
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—					
			無	現状値	—			目標値	—	
2	関連計画			「堺市都市計画マスタープラン」、「堺都心未来創造ビジョン」						
3	事業開始年度			平成 24 年度		点検対象年度		令和 12 年度		
4	実施根拠 （根拠法令、条例等）			都市再開発法、中心市街地の活性化に関する法律						
事業の概要										
5	事業の実施主体			本庁、堺市中心市街地活性化協議会						
6	事業の対象			堺市民及び市外からの来訪者				対象数	単位	
								—	—	
7	事業の目的			堺東駅・堺駅周辺を中心に、商業・業務等の都市機能の集積や地域資源の活用により訪れる・働く・住む人など多様な人が安全・快適に過ごせる空間を形成することで、堺都心部の魅力向上を図る。						
8	事業内容			・堺東エリアにおいて、行政、市民、事業者等の公民連携により、都市機能の集積や多様な目的の人が安全・快適に過ごせる空間の形成に向けた検討等を行う。 ・市民や事業者等が行う中心市街地活性化に資する取組を推進する。 ・デジタル技術の活用等による恒常的なデータ取得・分析を行い、事業評価や施策立案へ活用する。						
	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載									
9	主な支出先			委託業者、堺市中心市街地活性化協議会						
10	公民連携・協働事業									

II. 事業の目標

事業の成果や活動実績の測定							
11	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位		実績 令和6年度	実績見込み 令和7年度	目標 令和8年度	目標 点検対象年度 令和12年度
	都心エリアの歩行者通行量	人/日	目標値	-	-	65,280	68,400
			実績値	-	64,500		
			達成率	-	-		
	当該指標を選定した理由	歩行者通行量は賑わいや交流が創出されている状況を示す指標であり、訪れる・働く・住む人など多様な目的の人が集い、交流する魅力的なエリア形成の進捗を評価できるため					
目標値の設定根拠・算出方法	新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年度の水準						
12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位		実績 令和6年度	実績見込み 令和7年度	目標 令和8年度	
	堺東エリアにおける市民・事業者等と連携した活動数	回	目標値	4	4	5	
			実績値	4	4		
			達成率	100%	100%		
	当該指標を選定した理由	行政、市民、事業者等の公民連携の実現が当該事業の目的達成に寄与するため					
目標値の設定根拠・算出方法	堺東エリアにおける公民連携による取組数						

## 令和8年度 事務事業予算要求シート（2）

事務事業名	都心活性化推進事業	事業番号	017-051
-------	-----------	------	---------

### Ⅲ. 令和8年度予算要求額

#### 事業コスト

(単位：千円)

	項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
		決算	決算	決算	予算	予算要求
13 財源内訳	事業費 (a)	38,073	35,553	42,662	47,866	44,241
	国支出金					
	府支出金					
	市債					
	その他 ( )					
	受益者負担金(使用料、手数料等)					
	一般財源	38,073	35,553	42,662	47,866	44,241

#### 事業費の内訳

(単位：千円)

	主な項目	年度		事業費		主な項目	年度		事業費	
					うち一般財源					うち一般財源
14 事業費内訳	堺東エリア活性化検討業務	R7	予算	23,243	23,243		R7	予算		
		R8	予算	5,973	5,973		R8	予算		
	堺都心部調査分析業務【拡充】	R7	予算	1,000	1,000		R7	予算		
		R8	予算	14,768	14,768		R8	予算		
	中心市街地活性化関連業務	R7	予算	23,500	23,500		R7	予算		
		R8	予算	23,500	23,500		R8	予算		
	謝礼金	R7	予算	123	123		R7	予算		
		R8	予算	0	0		R8	予算		
		R7	予算				R7	予算		
		R8	予算				R8	予算		

#### 債務負担行為

(単位：千円)

15	期間	R ~ R	要求額
----	----	-------	-----

### Ⅳ. スケジュール

#### 経過及び今後の展開

16	R7まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「堺都心未来創造ビジョン」に示す堺東エリアの将来像の実現に向け、令和6年7月に「堺東エリアの市街地整備に向けた基本的な考え方」を策定し、地権者等関係者との協議や機運醸成を図りながら、魅力あるエリア形成に向けた取組を実施</li> <li>・瓦町公園周辺ゾーンにおける市街地再開発事業に向け、地元地権者による準備組合への技術的援助等を実施 など</li> </ul>
	R8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瓦町公園周辺ゾーンにおける市街地再開発事業の都市計画決定に向けた調整等</li> <li>・堺東駅前広場等の機能更新に向けた検討、関係者協議</li> <li>・都心部の活性化に資する公民連携の取組を実施</li> </ul>
	R9以降	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瓦町公園周辺ゾーンにおける市街地再開発事業の着手</li> <li>・堺東駅前広場等の機能更新に向けた方針案の策定</li> <li>・都心部の活性化に資する公民連携の取組を継続</li> </ul>

### Ⅴ. 要求のポイント

17	要求のポイント	堺東エリアにおける都市機能の集積や地域資源の活用により多様な目的の人が安全・快適に過ごせる空間を形成に向けた検討及び都心エリアの活性化に資する取組を推進するための予算を要求
----	---------	--

**令和8年度予算要求額：44,241千円**

**(うち拡充分：14,768千円)**

## 事業目的

堺東駅・堺駅周辺を中心に、商業・業務等の都市機能の集積や地域資源の活用により訪れる・働く・住む人など多様な人が安全・快適に過ごせる空間を形成することで、堺都心部の魅力向上を図る。

**【拡充】堺都心部調査分析業務：14,768千円**

## ■ 背景

- 「堺都心未来創造ビジョン」において、商業・業務・居住等の都市機能の集積や地域資源の活用により訪れる・働く・住む人など多様な人が安全・快適に過ごせる空間の形成に向けて「魅力を磨く」「魅力を結ぶ」「魅力を育てる」の3つの取組方針を示し、堺東エリア、環濠エリア、堺駅・堺旧港エリアで様々な取組を推進している。
- 各エリアでの取組による効果について、データに基づく客観的な評価・分析をする必要がある。
- 歩行者通行量は賑わいや交流が創出されている状況を示す定量的な指標であり、これまでは各エリアの代表地点として商店街を中心に調査してきたが、今後は都心部全体を調査する必要がある。

## ■ 拡充内容

- 歩行者通行量調査地点を、8地点から24地点に拡充（各エリアの商店街周辺に加え、主要道路の代表地点を追加）
- AIカメラを活用した歩行者通行量調査を試験的に実施
  - ・従来の人手によるカウント調査ではコスト等の観点から取得できない継続的なデータと歩行者属性等の情報を取得
  - ・今後も見込まれる労務単価高騰を見据え、従来の調査方法からの移行の可能性を検討

令和8年度 事務事業予算要求シート（1）

一般会計				要求区分	新規・拡充
				事務事業分類	G 企画・計画策定・調査研究事業
事務事業名	臨海部活性化推進事業			事業番号	017-057
担当部署名	建築都市	局	都市整備	部	都心未来創造課

I. 基本情報

事業の位置付け										
1	堺市基本計画 2030	施策との 関連	有・無	戦略	4.人や企業を惹きつける都市魅力 ～Attractiveness～		施策	(2) 多様な人が集い交流する魅力的な都心エリアの形成		
			有	取組の方向性	②水辺空間など豊かな地域資源の活用					
		寄与する KPI	有・無	指標名	都心エリアの歩行者通行量					
			有	現状値	64,500人/日（2025年度）		目標値	68,400人/日（2030年度）		
	堺市SDGs 未来都市 計画	施策との 関連	有・無	ゴール	ゴール⑪住み続けられるまちづくりを		ターゲット	11.3		
			有	取組	堺市都市計画マスタープランに基づく各エリアの特色を活かした都市整備の推進					
寄与する KPI		有・無	指標名	—						
		無	現状値	—		目標値	—			
2	関連計画			「大阪広域ベイエリアまちづくりビジョン（案）/堺駅・堺旧港周辺活性化ビジョン（案）」、「堺市都市計画マスタープラン」、「堺都心未来創造ビジョン」、「堺臨海部再生・創造ビジョン」						
3	事業開始年度			平成 23 年度		点検対象年度		令和 12 年度		
4	実施根拠 （根拠法令、条例等）			港湾法、海岸法、都市計画法						
事業の概要										
5	事業の実施主体			本庁						
6	事業の対象			対象者：臨海部を訪れる市民及び市外からの来訪者 対象地域：堺駅・堺旧港エリア				対象数	単位	
								—	—	
7	事業の目的			堺都心未来創造ビジョン等に示す将来イメージの実現、大阪広域ベイエリアまちづくりビジョン（案）の推進に向け、堺駅・堺旧港や堺浜の活性化、魅力創出に向けた取組を進め、立地特性を活かした賑わい・憩い・魅力ある海辺空間、交流拠点の形成を図る。						
8	事業内容			＜堺旧港の活性化等＞ ・堺旧港の水辺の魅力を活かした交流空間の形成に向け、親水護岸及びその後背地との一体的な利活用による交流機能の導入を行う。 ・堺旧港親水護岸をレクリエーションの場として開放したイベント「乙姫の休日。」等を実施する。 ・堺旧港へのアクセスルートにおける歩行者空間の改善を行う。  ＜堺駅周辺整備に向けた方針の検討＞ 堺駅周辺の低未利用地を活用した都市機能の集積、国内外からのゲートウェイとして多様な交流を生む拠点の形成、豊かな都市生活を育む拠点の形成、水と緑の憩いの空間形成など、堺駅周辺の活性化と魅力向上に資する機能に関する検討を行う。						
※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載										
9	主な支出先			委託業者等						
10	公民連携・協働事業									

II. 事業の目標

事業の成果や活動実績の測定								
11	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位		実績 令和6年度	実績見込み 令和7年度	目標 令和8年度	目標 点検対象年度 令和12年度	
	堺旧港親水護岸歩行者通行量	人/日	目標値	－	1,266	1,539	1,539	
			実績値	993	－			
			達成率	－	－			
	当該指標を選定した理由		堺旧港親水護岸の歩行者通行量を確認することで、堺旧港エリアの活性化状況を把握することができるため。					
	目標値の設定根拠・算出方法		堺旧港親水護岸歩行者通行量調査					
12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位		実績 令和6年度	実績見込み 令和7年度	目標 令和8年度		
	「乙姫の休日。」の来場者数	人/日	目標値	－	1,922	2,115		
			実績値	3,156	1,947			
			達成率	－	101%			
	当該指標を選定した理由		堺旧港の活性化が目的達成に寄与するため。					
	目標値の設定根拠・算出方法		「乙姫の休日。」の来場者数					

## 令和8年度 事務事業予算要求シート（2）

事務事業名	臨海部活性化推進事業	事業番号	017-057
-------	------------	------	---------

### Ⅲ. 令和8年度予算要求額

事業コスト										(単位：千円)					
13	財 源 内 訳	項 目		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度			
				決算		決算		決算		予算		予算要求			
		事業費 (a)			17,958		9,819		15,022		54,003		40,387		
		国支出金													
		府支出金													
		市債													
		その他 ( )									765		3,062		
		受益者負担金(使用料、手数料等)													
一般財源			17,958		9,819		15,022		53,238		37,325				
事業費の内訳										(単位：千円)					
14	事 業 費 内 訳	主な項目		年度		事業費		うち 一般財源	主な項目		年度		事業費		うち 一般財源
		堺旧港エリア活性化推進業務		R7	予算	12,000	11,235	旅費	R7	予算	34	34			
				R8	予算	13,498	10,436		R8	予算	67	67			
		堺旧港アクセス改善		R7	予算	3,000	3,000	消耗品費	R7	予算	10	10			
				R8	予算	2,700	2,700		R8	予算	132	132			
		堺旧港交流空間創出事業負担金		R7	予算	23,929	23,929	保険料	R7	予算	30	30			
				R8	予算	13,929	13,929		R8	予算	30	30			
		海上交通関連負担金		R7	予算	15,000	15,000	堺駅周辺整備に向けた方針検討業務【新規】	R7	予算	0	0			
				R8	予算	0	0		R8	予算	10,000	10,000			
		謝礼金		R7	予算	0	0		R7	予算					
R8	予算			31	31	R8	予算								
債務負担行為										(単位：千円)					
15	期間			R ~ R				要求額							

### Ⅳ. スケジュール

経過及び今後の展開		
16	R7まで	・堺旧港交流空間創出事業における民間施設設計・整備、民間施設等運用開始 ・交流空間創出社会実験「乙姫の休日。」 ・万博期間中の海上交通
	R8	・堺旧港における事業者・地域主体のエリア価値向上に向けたエリアマネジメント組織の設立準備 ・海上交通の実現に向けた取組 ・堺駅周辺整備に向けた方針案の検討
	R9以降	・堺旧港における事業者・地域主体のエリア価値向上に向けたエリアマネジメント組織の設立 ・海上交通の実現 ・堺駅周辺整備に向けた方針の検討

### Ⅴ. 要求のポイント

17	要求のポイント	<p>&lt;堺旧港の活性化等&gt; 親水護岸及びその後背地との一体的な利活用による交流機能の導入、エリア価値の向上に向けた取組の推進、海上交通の実現に向けた取組などにより、堺旧港のエリアの価値・認知度の向上、さらには持続的な活性化に向けた取組として、地域住民や民間の参画・主体による取組へと広げる。</p> <p>&lt;堺駅周辺整備に向けた方針検討&gt; 堺都心未来創造ビジョンに示す堺駅・堺旧港エリアの将来像の実現に向け、なにわ筋線開業を契機に、堺駅周辺が関西国際空港・国土軸を結ぶ関西の広域的なアクセスの中心となり、国内外から人々が集うエリアをめざし、周辺の低未利用地を活用した都市機能の集積、国内外からのゲートウェイとして多様な交流を生む拠点の形成、豊かな都市生活を育む拠点の形成、水と緑の憩いの空間形成など、堺の玄関口に相応しい拠点性強化に係る検討を行う。</p>
----	---------	--



## 令和8年度予算要求額：40,387千円

### 新規

堺駅周辺整備に向けた方針検討業務：10,000千円

### 背景

「堺市基本計画2025」では、多様な人が集う魅力的な都市空間の実現に向けて、堺東駅周辺や堺駅周辺において公共空間の機能更新や民間開発の促進などにより、商業・業務などの都市機能の更新を図り、多様な人が集う魅力的なエリアの形成を進める。

### 目的

堺都心未来創造ビジョンに示す堺駅・堺旧港エリアの将来像の実現に向け、なにわ筋線開業を契機に、堺駅周辺が関西国際空港・国土軸を結ぶ関西の広域的なアクセスの中心となり、国内外から人々が集うエリアとなることをめざす。

### 概要

堺駅周辺の低未利用地を活用した都市機能の集積、国内外からのゲートウェイとして多様な交流を生む拠点の形成、豊かな都市生活を育む拠点の形成、水と緑の憩いの空間形成など、堺駅周辺の活性化と魅力向上に資する機能に関する検討を行う。

令和8年度 事務事業予算要求シート（1）

一般会計				要求区分	新規・拡充
				事務事業分類	G 企画・計画策定・調査研究事業
事務事業名	環濠都市堺の再生事業			事業番号	017-063
担当部署名	建築都市	局	都市整備	部	都心未来創造
課					

I. 基本情報

事業の位置付け										
1	堺市基本計画 2030	施策との 関連	有・無	戦略	4.人や企業を惹きつける都市魅力 ～Attractiveness～		施策	(2) 多様な人が集い交流する魅力的な都心エリアの形成		
			有	取組の方向性	①多様な人が集う魅力的な都市空間の形成					
		寄与 する KPI	有・無	指標名	都心エリアの歩行者通行量					
			有	現状値	64,500人/日（2025年度）		目標値	68,400人/日（2030年度）		
	堺市SDGs 未来都市 計画	施策との 関連	有・無	ゴール	ゴール(Ⅺ)住み続けられるまちづくりを		ターゲット	11.3		
			有	取組	堺市都市計画マスタープランに基づく各エリアの特色を活かした都市整備の推進					
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—					
				現状値	—		目標値	—		
2	関連計画			「堺市都市計画マスタープラン」、「堺都心未来創造ビジョン」						
3	事業開始年度			平成 24 年度		点検対象年度		令和 12 年度		
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)									
事業の概要										
5	事業の実施主体			本庁						
6	事業の対象			堺市民、来訪者				対象数	単位	
								266	万人	
7	事業の目的			歴史を紡いだ環濠エリアの新たな価値創造により人々が集うエリアをめざし、公共空間の利活用を公民連携で推進することで都市魅力の向上を図る。						
8	事業内容			<p>（元堺消防署用地活用事業）</p> <p>歴史文化資源が点在する環濠エリアの中心という立地を活かし、民間活用による交流・賑わい空間の創出に向けて、元堺消防署用地の活用を推進する。</p> <p>（堺環濠エリア活性化）</p> <p>エリアプラットフォーム（公民連携組織）の構築をめざし、ビジョン・目標を共有した公民多様なプレイヤーと連携して、元堺消防署や環濠の水辺、歩道空間などの公共空間を人々が集まり、憩い、交流の場とする取組を進める。</p> <p>・元堺消防署での市民や事業者などのプレイヤーによる企画の実施</p> <p>・元堺消防署を中心とした歩道空間利活用に向けた社会実験、勉強会の実施</p> <p>・堺環濠町づくり推進協議会（環濠茶論）による情報発信、企業・店舗・団体等の連携促進などの取組の実施</p>						
	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載									
9	主な支出先			委託業者、協議会負担金						
10	公民連携・協働事業									

II. 事業の目標

事業の成果や活動実績の測定									
11	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位		実績	実績見込み	目標	目標	点検対象年度	
				令和6年度	令和7年度	令和8年度		令和12年度	
	都心エリアの歩行者通行量		目標値	-	-	65,280		68,400	
		人/日	実績値	-	64,500				
			達成率	-	-				
	当該指標を選定した理由	歩行者通行量は賑わいや交流が創出されている状況を示す指標であり、訪れる・働く・住む人など多様な目的の人が集い・交流する魅力的なエリア形成の進捗を評価できるため							
12	目標値の設定根拠・算出方法	新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年度の水準							
	活動指標(成果を上げるための手段)	単位		実績	実績見込み	目標			
				令和6年度	令和7年度	令和8年度			
	周遊イベント等への参加者数		目標値	750	1,100	1,200			
		人	実績値	1,061	1,100				
			達成率	141%	100%				
	当該指標を選定した理由	環濠エリアへの来訪者数を増やすため							
	目標値の設定根拠・算出方法	周遊イベント等への参加者数							



## 令和8年度 事務事業予算要求シート（2）

事務事業名	環濠都市堺の再生事業	事業番号	017-063
-------	------------	------	---------

### Ⅲ. 令和8年度予算要求額

事業コスト										(単位：千円)					
13	財 源 内 訳	項 目		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度			
				決算		決算		決算		予算		予算要求			
		事業費 (a)		10,483		11,824		15,442		29,948		34,881			
		国支出金													
		府支出金													
		市債													
		その他 ( )													
		受益者負担金(使用料、手数料等)													
一般財源		10,483		11,824		15,442		29,948		34,881					
事業費の内訳										(単位：千円)					
14	事 業 費 内 訳	主な項目		年度		事業費		うち 一般財源	主な項目		年度		事業費		うち 一般財源
		附属機関委員報酬		R7	予算	41	41	堺環濠エリア活性化推進検討支援業務【拡充】	R7	予算	7,648	7,648			
				R8	予算	82	82		R8	予算	16,962	16,962			
		旅費、費用弁償		R7	予算	98	98	堺消防署用地活用事業に係る事業者公募等支援業務	R7	予算	12,100	12,100			
				R8	予算	207	207		R8	予算	2,602	2,602			
		消耗品費、印刷製本費、光熱水費、修繕料		R7	予算	2,651	2,651	元堺消防署用地活用事業に係る構造計画検討ほか業務等【拡充】	R7	予算	0	0			
				R8	予算	3,113	3,113		R8	予算	6,477	6,477			
		多目的トイレ賃貸借		R7	予算	1,952	1,952	元堺消防署機械警備業務、清掃業務、点検業務等	R7	予算	2,203	2,203			
				R8	予算	1,485	1,485		R8	予算	1,903	1,903			
		手数料、保険料、通信運搬費		R7	予算	1,255	1,255	協議会負担金	R7	予算	2,000	2,000			
				R8	予算	50	50		R8	予算	2,000	2,000			
		債務負担行為										(単位：千円)			
15	期間		R8 ~ R9				要求額		51,000						

### Ⅳ. スケジュール

経過及び今後の展開		
16	R7まで	(元堺消防署用地活用事業) 事業者公募の手続き (堺環濠エリア活性化) 元堺消防署や公園・歩道など公共空間の利活用に関するワークショップや社会実験等の実施、これらの取組を通じたエリアプラットフォーム構成員 (堺環濠町づくり推進協議会、企業等) の発掘
	R8	(元堺消防署用地活用事業) 事業者公募の手続き、事業者決定および施設設計 (堺環濠エリア活性化) 元堺消防署でのプレイヤーによる企画実施、歩道空間利活用の社会実験や勉強会の実施、これらの取組を通じたエリアプラットフォーム構成員との連携・調整
	R9以降	(元堺消防署用地活用事業) 改修等工事および運営開始 (堺環濠エリア活性化) エリアプラットフォームの構築、歩道空間利活用に向けた方向性の策定および取組の実施

### Ⅴ. 要求のポイント

17	要求のポイント	<p>(元堺消防署用地活用事業) 元堺消防署用地の活用および管理運営を担う事業者の決定後、元堺消防署改修工事に向けた設計および地質調査を実施する。また、設計業務に先立ち、構造計画検討および石綿含有調査を行う。</p> <p>(堺環濠エリア活性化) ・これまでの公民連携での取組等を通じて市民や事業者等、環濠エリアの人々の地域の賑わい創出に対する意識が醸成されつつある状況である。このことから、この機運を生かし環濠エリアの活性化に向けて、元堺消防署を中心とした歩道空間利活用の取組を進める。また、これらの取組はエリアプラットフォーム構成員との連携・調整を図りながら進める。 ・堺環濠町づくり推進協議会 (環濠茶論) においては、環濠-CANGO-橋わたしフェスを通じて、企業・店舗・団体等の連携を図る。</p>
----	---------	--

## 事業目的

**令和8年度予算要求額：34,881千円**

歴史を紡いだ環濠エリアの新たな価値創造により人々が集うエリアをめざし、公共空間の利活用を公民連携で推進することで都市魅力の向上を図る。

## 拡充

**元堺消防署用地活用事業に係る構造計画検討ほか業務等：6,477千円**

## 背景

- 堺市基本計画2025に示す空間像やエリア戦略、堺都心未来創造ビジョンに示す特性、取組の方向性等を踏まえ、「元堺消防署用地活用の方向性」を策定した。この方向性に基づき、本用地では、歴史文化資源が点在する環濠エリアの中心という立地を活かし、賑わいや交流が創出される機能を導入し、住民や来訪者が集い、交流が生まれる施設をめざす。
- 元堺消防署用地の活用にあたり、元堺消防署の改修工事に必要な設計図書を作成する。
- 設計業務に先立ち、昇降機棟増築に係る設置予定箇所の地質調査を実施する。また、構造計画検討および石綿含有調査を行う。

## 業務内容

### <継続>

- 元堺消防署用地の活用および管理運営を担う事業者公募

### <拡充>

- 元堺消防署の改修工事に向け、設計及び地質調査の実施（R8～R9債務負担行為）
- 構造計画検討及び石綿含有調査の実施

## 拡充

## 堺環濠エリア活性化推進検討支援業務：16,962千円

### 背景

- ・ 堺都心未来創造ビジョンにおいて、環濠エリアの取組として位置付ける「元堺消防署用地の活用」「豊かな歩行空間の形成」について、ビジョンや目標を共有した公民の多様な主体との連携のもと取組を推進する。
- ・ 令和4～5年度は市民や事業者等のプレイヤー育成などを目的とし、公園や水辺などの公共空間でのワークショップや勉強会、社会実験を実施。
- ・ 令和6年度からは、元堺消防署において賑わいや交流が創出される場所をめざし、ワークショップや社会実験等の取組を進めている。令和8年度も引続き、1階公共スペースでの市民や事業者等のプレイヤーによる企画実施を進めることで、元堺消防署の認知度向上、愛着醸成、公共空間の利活用へと繋げる。
- ・ これまでの公民連携での取組等を通じて市民や事業者等、環濠エリアの人々の地域の賑わい創出に対する意識が醸成されつつある状況であることから、この機運を生かし、環濠エリアの活性化に向けて、元堺消防署を中心とした歩道空間利活用の取組を進める。

### 業務内容

#### <継続>

- ・ 元堺消防署での市民や事業者等のプレイヤーによる企画の実施

#### <拡充>

- ・ 元堺消防署を中心とした歩道空間利活用に向けた社会実験、勉強会の実施

## 令和8年度 事務事業予算要求シート（1）

一般会計				要求区分	新規・拡充
				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	建築防災推進課一般事務			事業番号	017-072
担当部署名	建築都市	局	開発調整	部	建築防災推進
					課

### I. 基本情報

#### 事業の位置付け

1	堺市基本計画 2030	施策との 関連	有・無	戦略	5.強くなやかな都市基盤 ～Resilience～		施策	(1) 自助・共助・公助のバランスのとれた防災・減災力の向上		
			有	取組の方向性	④空き家対策の推進					
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—					
			無	現状値	—		目標値	—		
	堺市SDGs 未来都市 計画	施策との 関連	有・無	ゴール	ゴール(1)住み続けられるまちづくりを		ターゲット	11.5,11.b		
			有	取組	住宅、公共施設、都市インフラの災害対策の推進					
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—					
			無	現状値	—		目標値	—		

2	関連計画		さかい 魅力・安心 住まいプラン（第6章 空家等対策計画）			
3	事業開始年度		令和 8 年度		点検対象年度	令和 13 年度
4	実施根拠 （根拠法令、条例等）		空家等対策の推進に関する特別措置法			

#### 事業の概要

5	事業の実施主体	堺市		
6	事業の対象	市内の空き家等及びその所有者等	対象数	単位
			450	件
7	事業の目的	管理不全な空き家等の所有者等への指導及び相続人不明・不存在の空き家等について財産管理制度を活用し、管理不全な空き家等の解消をめざす。		
8	事業内容	【所有者等（相続人）調査】 相続人調査・相続関係図作成等を民間事業者（複雑な事案は司法書士）へ委託することにより、空き家等の課題の早期解消につなげる。		
		【財産管理制度の活用】 相続人不存在等事案について、税務部門とも連携しながら、申立てを実施。選任された弁護士等との連携により、維持保全や売却など、空き家等の課題解決につなげる。		
		※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載 —		
9	主な支出先	所有者等（相続人）調査委託先としての民間事業者		
10	公民連携・協働事業	—		

### II. 事業の目標

#### 事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位		実績 令和6年度	実績見込み 令和7年度	目標 令和8年度	目標 点検対象年度 令和13年度
	財産管理制度活用による管理不全等の解消件数	件	目標値	0	0	3	0
			実績値	0	0		
			達成率	—	—		
	当該指標を選定した理由	相続人不明・不存在と推定される空き家等につき、委託事業者及び司法書士による確実な調査により、適正に受理され、かつ、管理人との円滑な連携により、管理不全状態が解消される件数を指標とする。					
目標値の設定根拠・算出方法		申立の結果、財産管理制度活用により管理不全等が解消される見込み件数					
12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位		実績 令和6年度	実績見込み 令和7年度	目標 令和8年度	
	財産管理制度の申立件数	件	目標値	0	0	3	
			実績値	0	0		
			達成率	—	—		
	当該指標を選定した理由	相続人不明・不存在と推定される空き家等につき、順次申立を行う財産管理制度申立件数					
目標値の設定根拠・算出方法		相続人不明・不存在等の空き家の解消を図るための年度ごとの財産管理制度申立件数					

## 令和8年度 事務事業予算要求シート（2）

事務事業名	建築防災推進課一般事務	事業番号	017-072
-------	-------------	------	---------

### Ⅲ. 令和8年度予算要求額

事業コスト										(単位：千円)							
13	財 源 内 訳	項 目	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度						
			決算		決算		決算		予算		予算要求						
		事業費 (a)		0		0		0		0		14,418					
		国支出金															
		府支出金															
		市債															
		その他 ( )															
		受益者負担金(使用料、手数料等)															
一般財源										14,418							
事業費の内訳												(単位：千円)					
14	事 業 費 内 訳	主な項目		年度		事業費		うち 一般財源		主な項目		年度		事業費		うち 一般財源	
		空き家等現地調査及び所有者等 (相続人) 調査業務		R7	予算							R7	予算				
				R8	予算	9,064	9,064					R8	予算				
		司法書士への相続人調査委託業 務		R7	予算							R7	予算				
				R8	予算	1,914	1,914					R8	予算				
		戸籍等交付請求郵便料 (本市 発送分・返送先分)		R7	予算							R7	予算				
				R8	予算	440	440					R8	予算				
		財産管理制度の申立費用		R7	予算							R7	予算				
				R8	予算	3,000	3,000					R8	予算				
				R7	予算							R7	予算				
R8	予算							R8	予算								
債務負担行為												(単位：千円)					
15	期間		R ~ R				要求額										

# 空き家等対応業務（新規・拡充）

## 事業内容

令和8年度予算要求額： 14,418千円（建築防災推進課一般事務）  
5,600千円（環境業務課・まち美化推進事業）

- 空き家等対策に係る現地調査（管理不全状態の確認）及び所有者等調査を業務委託し、迅速化を図る。
- 相続人不存在の空き家等の管理不全状態の解消に向け、財産管理制度を活用した適正管理を推進する。

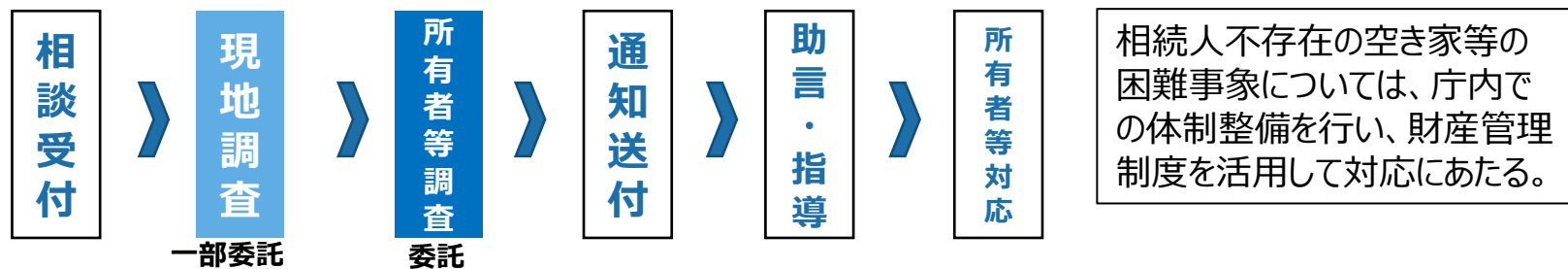
## 〔背景・現状〕

- 登記名義人が死亡している事案が大半を占め、相続人調査に時間と労力を要する。
- 管理不全空き家等が増加傾向にあり、とりわけ登記名義人が相続人不明・不存在である空き家等は将来的に空家特措法に規定する管理不全空家等、特定空家等になることが予想され、対応が困難となる前の早期段階での対応が求められる。

## 〔実施目的〕

- 初動対応を円滑化し、所有者等への啓発や指導を迅速化し、管理不全状態の早期解消を促す。
- 所有者等不存在の空き家が放置され、管理不全空家等や特定空家等となることを防ぐ。

### 〔空き家等対応の流れ〕



## 〔実施による効果〕

- 所有者等への啓発や指導を迅速化し、また管理不全な空き家等の解消を図り、住民生活の安全・安心を確保する。